

～景観だより～

てくてく和束

第二号

(令和六年七月二十二日)

発行

和束町役場地域力推進課

0774-78-3002

「てくてく和束」は文化的景観の調査で発見した地域の特徴(和束らしさ)を紹介する広報紙です。

〇〇の調査をしました！

さて、〇〇には何が入ると思いますか？

(ヒント)

宇治茶の生産地である和束町では、茶園周辺の建造物で仕事の合間に休んだり、雨宿りをしたり、昼食やケンズイ(間食)を食べたりします。

その建造物のことを何と呼ぶでしょうか。左記の3つからお答えください。

- 1 イボ
- 2 ヘソ
- 3 コブ



作問…奈良文化財研究所 恵谷氏

(和束町文化的景観保存活用計画策定委員)

正解は…本稿の中に！



調査風景

イボの位置を地図に落としていきます。

令和六年五月十五日(水)、茶園の周辺にある建造物の調査をしました。

この建造物を調べることとなったきっかけは昨年度に開催されたワークショップ

「和束の風景学舎」のときです。(下に続く)

石寺、撰原、白栖、釜塚、原山の五地区を対象に、住民の方々からすこし昔(現在、五〇年前)の地域の様子を教えてくださいながら、大きな地図に情報を書き込んでいく、というものでした。その時に出てきたのが**イボ**です。

イボでケンズイを食べていた、道具置き場である……どうやらイボが茶業に欠かせない要素ではないか、ということに。そこで今回は奈良文化財研究所の恵谷さん、共同研究員の方とともに原山、石寺(白栖も少し)のイボを探し、どのような機能をもった建造物なのか調査しました。

本稿では、茶園周辺に分布する物置機能を持った農作業小屋をイボとします。(裏面に続く)



なぜ、イボに注目？

イボについて住民の方に聞くと、「え！イボを調べているの？」と不思議な顔をされます。住民さんにとって当たり前な建造物かもしれませんが、実はとても面白いもので材料や形、大きさ、場所などさまざまな個性がありました。



今回調査したイボの分布図→
航空写真で把握できるものと、現地にて確認したもの約八〇カ所。

さまざまなイボ

場所

木陰
道の近く
隣に貯水池（原山）
茶畑のはじ 柿

利用方法

寒冷紗収納
茶葉の仮置き場
休憩所
（ケンスイを食べた）
物置

材料

トタン
再利用した木材
土壁
コンクリート

文化的景観では目に見えるもの全てが要素となります。茶園が家から遠いと家に帰る時間がなく、休憩場所が必要となり、イボを建てる。それはきっと、山あいでお茶を作る和東だからこそ生み出された要素、「和東らしさ」といえるのではないのでしょうか。調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

和東らしさを見つけ、年中行事カレンダーを完成させるため、各地区の行事に参加させていただいています。その活動紹介。

新企画

出張！てくてくコーナー



→水無月団子
美味しかったです！

・六月末、水無月団子を食べました。
・七月七日、中区の大杉前でおこなわれる八坂神社の祇園祭に参加しました。
・七月二〇日、園区の滝祭りに参加しました。
実際に参加させていただくことで、お祭りが引き継がれ、おこなわれていることの素晴らしさを感じることができました。

お知らせ

みなさま、「てくてく和東」を閲覧いただきありがとうございます。

夏から秋にかけて、調査を実施する予定です。ご協力のほど、お願いいたします。

引き続き情報収集中ですので問い合わせは地域力推進課岩本まで。